

断酒継続している アルコール依存症者の 成功体験の分析

医療法人 耕仁会 札幌太田病院

地域福祉課 職員A

はじめに

松下(2012)によると、治療後の断酒率

2年から3年: 28~32%	5年前後: 22~23%
8年から10年: 19~30%	13年前後: 18~25%



断酒を継続するのは難しい
一方で断酒継続している人もいる

調査方法

調査方法:

半構造化面接でインタビュー形式に聴取

調査時期:

令和6年8月14日～令和6年8月19日

質問内容

飲酒制御可能時期

飲酒制御不能時期

治療

断酒

環境



- ①断酒継続できている理由
 - ②お酒の誘惑に勝っている理由
- に注目して考察

対象者

対象者：

当院1階デイケア通所者で3年以上断酒継続
している患者から性別や年代に偏りが出ない
よう3名抽出

A氏：50代女性 断酒歴11年

B氏：60代男性 断酒歴17年

C氏：80代男性 断酒歴30年以上

調査結果①

断酒できている理由

「親と会話ができるようになった」
「家族が安心している姿を見て自分が安心する」

「1日のリズムをなるべく崩さない」

「抗酒剤をやめてから気が楽になって...
『いつでも酒飲める』と言い聞かせている」

調査結果②

お酒の誘惑に
勝っている理由

「また病院に行かなきゃ」
「自助グループで話していると
『もうお酒飲めない』と思う」

「デイにつながる、断酒会につながる」
「なるべくお酒に近づかない」

「『断酒じゃない、飲まないでいる。いつ飲むかわからないよ』と言う気持ちでいる」

考察

答えられ
ない人も
いる？

共通する理由
があるのでは
ないか？

【断酒できている理由】について

3人全員が共通する理由はなかったが、
各々の理由を答えていた



断酒継続できている理由を本人が自覚して
いることで断酒への意識を保つことができ
ているのではないか

考察



C氏

「お前は酒飲んだらだめだぞ」って
言われたら逆に飲みたくなる



周りが断酒を強要するのではなく、
本人が断酒する意思を持たなければ続かない
のではないが

家族や周囲の人々は本人がSOSを出した時に
すぐ治療につなげられるような準備をしておく

考察

現在3人全員デイケアに通所しているが、
過去には入院治療後再飲酒歴あり
その際デイケアや断酒会にはつながっていな
かった



人と会うことやデイケア・断酒会に通うことが
飲酒の抑止力になっているのではないか

考察

板橋ら(2022)は「専門治療や自助グループなど
複数の治療的関係を長い期間経験し…
断酒の期間を長くすることが考えられる」



今回の調査でも実証されたのではないか



対象者の人数や条件、調査方法を見直すことで
新たな結果が生まれる可能性がある

おわりに

本人が断酒継続できるような方法を
一緒に検討していく

必要な情報提供や環境調整を行う



ソーシャルワーカーとしてできること

謝辞

本研究にあたり、
ご協力いただきました1階デイケア通所者3名
ならびに関係者の皆様に深く感謝いたします。

引用文献

1) 松下幸生

アルコール依存症の治療総論

日本アルコール関連問題学会雑誌 第14巻第1号 2012年

2) 板橋登子 小林桜児 黒澤文貴 西村康平

物質使用障害患者における初診3年後の断酒断薬予後

—アルコール、違法薬物、処方薬市販薬の乱用物質別による断酒断薬継続期間への影響因の検討—

精神神経学雑誌 第124巻第8号 515-532 2022年

ご清聴ありがとうございました